

昔むかし、あるところに、ひとりのおかあさんが、三人の娘むすめと赤ん坊ぼうといつしょに暮らしていました。

ある日、おかあさんは、市いちへでかけていきました。帰りが遅くなり、夜中よなかになってしましました。すると、とちゅうの山の中で、とらに会いました。とらはおかあさんを食べようとおそいかかつてきました。おかあさんは、おそろしくて、「どうか、私を食べないでおくれ。私より、うちに留守番るすばんをしている子どもたちのほうがずっとおいしいよ」といつてしました。とらは、「ふうん。おまえの子どもはなんていう名前だ」ととききました。

「日順ひそん、月順つきそん、星順せいそんだよ。赤ん坊にはまだ名前はないよ」

それを聞くと、とらはすぐにおかあさんの家へ行きました。そして、戸をたたいていいました。

「日順や、月順や、星順や。帰つてきたよ。早く戸を開けておくれ」

その声がおかあさんの声とはちがつたので、子どもたちは、

「ほんとうにおかあさんなら、手を見せてちようだい」といいました。とらは、戸のすきまから手をさしいれました。子どもたちはその手を見て、

「どうしてこんなに黄色い手なの」ととききました。とらは、

「おばあちゃんの家で壁ぬりを手伝つたんだよ。だから黄色いんだよ」といたえました。子どもたちは、

「そんなら、足を見せてちようだい」といいました。とらは、こんどは足をさしいれました。子どもたちは、「どうしてこんなに黒い足なの」ととききました。とらは、

「おばあちゃんの家でぶたれたんだよ。それであざになつたんだよ」とこたえました。子どもたちは、ほんとうにそなんだと思って、戸を開けました。

おかあさんに化けたとらは、うちにいると、子どもたちに、「赤ん坊をおよこし」といいました。そして、赤ん坊をだいて台所に行き、障子しようじを閉めてしまいました。

しばらくすると、台所から、ポリポリ、ポリポリ何かをかじる音がしました。子どもたちは、

「おかあさん、ひとりで何を食べてるの。わたしたちにも少しちょうだい」といました。けれども何もくれません。そこで、障子のあながらのぞいてみると、いっぴきのとらが赤ん坊の指の骨ほねをしゃぶっていました。子どもたちはおそろしくて、なんとかして逃げだそうと考えました。そこで、

「おかあさん、便所べんじょに行きたくてしようがないんだけど。ちょっと行つてきていい」とたずねました。とらは、

「いいや、ダメだよ」といつて、行かせてくれません。

「じゃあ、うらの戸口の垣根かきねのところでやつてもいい」ときくと、

「ああ、いいよ」といつたので、子どもたちはうらの戸口から逃げだしました。そして、井戸のそばの高い木の上に登つていきました。

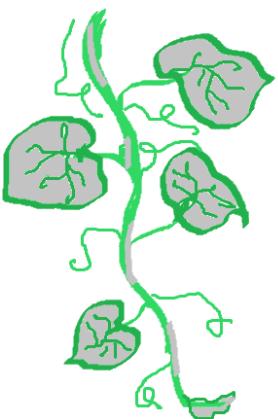
子どもたちがなかなかもどつてこないので、とらは、子どもたちを探しに、うらの戸口から出ていってみました。すると、井戸の中に三人のすがたが映つているのが見えました。見あげると、そばの高い木の上に子どもたちがいます。とらは、

「日順ヘルスンや、月順タルスンや、星順ビヨルスンや。おまえたち、そんな高いところへどうやって登つたんだい」とききました。子どもたちは、

「おばあちゃんのうちに行つて、ごま油を借りてきて、それを木にぬつて登つたのよ」といいました。とらは、「ごま油を借りてきて、木にぬつて登りはじめました。ところが、油ですべつて登れません。とらは、

「日順ヘルスンや、月順タルスンや、星順ビヨルスンや。いつたいどうやつたら登れるんだい」とききました。すると、星順ビヨルスンが、

「おばあちゃんのうちに行つて、おのを借りてきて、木の幹みきに段々だんだんを作つて登ればいいのよ」といいました。とらは、おのを借りてきて、木の幹に段々を作つて登りはじめました。とらは、どんどん登つてきます。子どもたちは神さまにお祈りしました。



「神さま。どうか、わたしたちに、銀のかぼちやのつ

るを下ろしてください」

すると、天から、銀の綱<sup>つな</sup>がするすると下りてきました。子どもたちが綱をにぎると、綱はずんずん天にむかって上つていきました。とらは、木の上から子どもたちにきました。

「日順や、月順<sup>タルスン</sup>や、星順<sup>ビヨルスン</sup>や。おまえたち、どうやつてそんなに上れるんだい」

「神さまに、くさつたかぼちやのつるを下ろしてくださいってお祈りしたのよ」

そこで、とらは、

「神さま、どうか、わたしに、くさつたかぼちやのつるを下ろしてください」といいました。すると、天から、くさつた綱がするすると下りてきました。とらが綱をにぎると綱はずんずん上つていきましたが、とちゅうまでくるとぶつんと切れてしまいました。

とらは、井戸に落ちて死んでしまいました。

天に上った娘たちは、日と月と星になつたといふことです。

原話：『朝鮮民譚集』孫晋泰著／勉誠出版

再話：村上郁